

## 放射線診療(CT検査・核医学検査)を受ける方へ

### ◆検査による放射線被ばく線量

私たちは日常生活の中で自然放射線により1年間に約2.4ミリシーベルト(mSv)被ばくしています。当院のCT検査による被ばく線量(頭部:2.5mSv、胸部:5mSv、腹部:13mSv、胸部～腹部:17mSv)および核医学検査による被ばく線量(1～15mS)は、胸部レントゲン検査(0.06mSv)よりは多いものの、1年間の日常的な被ばくと同程度～数倍程度の低い線量です。

### ◆放射線被ばくによる人体への影響

放射線による影響には確定的影響(脱毛・白内障・皮膚障害など)と確率的影響(がん・遺伝的影響)がありますが、CT検査や核医学検査で受けるような低い線量で確定的影響を引き起こすことはなく、確率的影響も発がんリスクの上昇は確認できないか、極めて小さいと言われてしています。

### ◆検査の必要性

検査を受けることで病気の正確な診断と適切な治療が可能で、特に病気が見つからなかった場合も病気の不安を解消することができます。このような利益が放射線被ばくによるリスクをはるかに上回るため検査をお勧めしています。

### ◆医療被ばく低減の取り組み

当院では、できるだけ放射線被ばくを減らすよう取り組んでおり、検査による被ばく線量の目安を示した診断参考レベル<sup>\*</sup>以下の線量で検査を施行しています。

診断参考レベル:医療被ばく研究情報ネットワーク(J-RIME)が設定・公表している医療被ばくのガイドライン。

日本医学放射線学会・日本診療放射線技師会の被ばく線量調査結果をもとに設定されている。

被ばくが診断参考レベルを超える場合は撮影条件の見直しが推奨される。